

教職あらかると

## 野田市児童虐待死事件で思うこと

2019.02 後藤 忠

何んともグロテスクで気持ちが悪くなる事件が起きた。情報はマスコミ報道だけなので憶測ばかりの所感になると思うが、どうしても一言言わずにはいられない気持ちだ。

### 関係諸機関の対応のまずさだけに関心が向いているが・・・

報道の限りだが、関係諸機関（教育委員会、児童相談所、転校先の学校）の初歩的、基本的対応に、あってはならない齟齬や判断ミスがあったことは事実だと思う。

しかし、事態の元凶である「親」にもっと焦点を絞った問題の解明を図るべきだと私は思う。

未だ非力で、ゆえに可愛がられ、保護されるべき存在をしつけと称して執拗に死ぬまで苛め抜く。

苦痛と恐怖に怯え、泣き叫んで懇願しただろうに、その声は一切耳を貸さず、ついに死に至らせてしまう…。何ともむごたらしい、人間の皮をかぶった悪魔の仕業としか思えないできごとだ。

どうしてこうした大問題を起こせるのか、こうした大問題を起こす根を抱えた親（大人）が出現し、増加し続けているのか？

### 学校現場の悲鳴

このような親に類似した保護者に日々苦しめられている学校は予想以上に多い。

日常の学校生活では、意思疎通の些細な不十分さから生ずる行き違いは常にあるものだが、誠意をもって対処すれば理解し合える、信頼し合える

普通の事である。

にもかかわらず、学校現場が上げている悲鳴は、限度を超して対応せざるを得ない、普通でない保護者に対する悲鳴である。

そうした保護者には共通点がある。（以下、順不同だが）

- \*そもそも他者への感謝とか敬愛の念がない。
  - \*不寛容である。
  - \*自分を分からせようとする意識が強く、分かろうとしない。
  - \*常に被害者で、誇りや自信がなく、劣等感が強い。
  - \*母子分離、父子分離ができていない。
  - \*自己中心的で、相手（学校）の事情や相手（学校）の都合などを考えない、考えられない。
  - \*時間にルーズである。
  - \*学校の説明より、子供の言い分を信じる。
  - \*権威や権力を振りかざして執拗に恫喝する。
  - \*学校に対する根強い不信感がある。
  - \*自分を正義の使者だと思っている。
- だから、まともな話し合いができない、話がかみ合わない。相手がぎゃふんというまで執拗に責め続ける。

### 誰かいい知恵はないか？

このままでは学校が疲弊してしまう。優秀な教師や優秀な校長が神経や精神を病んで辞めてしまう。まさに学校の危機である。

何とかならないものか。